

天然由来 機能性成分の見た目の
アンチエイジング



アスタキサンチンと 担子菌 BDM-X エキスの 皮膚老化、育毛分野への 可能性

日時

2022年6月18日(土)
10時30分～11時00分

(時間は当日の進行により多少前後する可能性があります)

会場

大阪国際会議場 3F
(グランキューブ大阪)
ミニセミナー会場
イベントホール BCDE 内

演者

北海道科学大学
薬学部
応用薬学部門 薬理学分野
教授 若命 浩二 先生



※展示会場にてブースを設営しておりますので、お気軽にお立ちください。

アスタキサンチンと担子菌 BDM-X エキスの 皮膚老化、育毛分野への可能性

演者：若命浩二 先生

北海道科学大学 薬学部 応用薬学部門 薬理学分野 教授

略歴

1993年 北海道薬科大学大学院 薬学研究科 修士課程 修了

2000年 獨協医科大学 医学部 博士（医学）号取得

2006年～2007年 テキサス州立大学ヒューストン校

ヘルスサイエンスセンター 医学部外科学 研究員

2006年～2009年 北海道大学 大学院医学研究院 免疫病態学 研究員（兼任）

2014年 北海道薬科大学 薬学部 准教授

2022年 北海道科学大学 薬学部 教授（現在に至る）

国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 客員研究員、

一般社団法人 日本抗加齢医学会 評議員

一般社団法人 日本臨床ミトコンドリア活性化研究会 学術理事

【序論】

皮膚老化、育毛分野の研究は「見た目のアンチエイジング」において非常に重要である。ヒトの外表面は遺伝、環境、生活習慣が要因になり変化すると考えられる。今回は、生活習慣に係るボディケア（外用薬、化粧品など）への適用として2つの天然成分について概説する。

【アスタキサンチン】

アスタキサンチンは、カロテノイド色素に近い構造を有し、脂溶性、抗酸化活性に優れている。豊富な学術データにより健康食品、化粧品原料として幅広く利用されている。皮膚美容分野において、経口投与、塗布によるUV保護効果、サイトカイン（TNF- α 、IL-6、IL-1 α ）抑制による抗炎症作用が確認された。また、MMP-1（マトリックスペロテアーゼ）阻害による肌のシワ、弾力の改善などの報告がある。特に、脂溶性の高いアスタキサンチンは塗布による肌への浸透性が期待できる。

【BDM-X】

BDM-Xは、「白雪茸」と呼ばれ担子菌門に属し、学名はBasidiomycetes-Xである。このBDM-Xには β グルカンをはじめ、ピロールアルカロイドなどの成分が同定されている。我々の先行研究においてBDM-Xエキス中に約400種の成分を同定した。さらに、マクロファージTLR4の刺激による免疫賦活活性、シワの原因であるコラーゲン分解酵素（エラスターゼ）阻害効果も確認している。もともと、BDM-XはDPPHラジカルに対する強い抗酸化活性が報告されており、酸化ストレスに対して防御効果を示す。

【今後の展開】

脂溶性成分のアスタキサンチン、水溶性成分の多いBDM-Xの組み合わせによって、両素材の活性を最大に引き出せる可能性がある。現在、この2つの素材の相乗作用による皮膚美容、とくに頭皮への影響による育毛効果について検討中である。